

平成19年度 福岡県防災賞



福岡県知事
麻生 渡

ご挨拶

福岡県西方沖地震の発生からまもなく3年になります。この地震で被害が集中した玄界島ではまもなく復興事業が完了し、すべての住民の皆さんが帰島されます。

私たちは、震災から、日ごろの災害に備えた活動の大切さなど、多くのことを教訓として学びました。

自らの身は自らで守る「自助」、町内会や自治会などの地域でお互いに助け合う「共助」、そして、公的な防災関係機関が行う「公助」がよりよいバランスで連携を取ることで、災害の被害軽減を図ることができます。

県では、災害に強い安全なまちづくりを推進するため、平成17年度に「福岡県防災賞」を創設しました。この賞は、防災に関する幅広い取り組みや工夫、永年にわたる防災対策等の実績、災害発生時の活動など、特に優れたものを表彰し、県民の皆さんに広く紹介することによって、本県全体の防災力の更なる向上を図ることを目指しています。

3回目となる本年度の防災賞には、団体部門7件、事業所部門5件、個人部門4件の計16件の推薦があり、その中から特に顕著な功績があった3者を福岡県防災賞に決定しました。

今回の表彰事例を参考として、各地で防災に関する取り組みがさらに広がることを期待しています。



団体部門

北九州市八幡東区市民防災会連合会

昭和49年に自主防災組織として結成され、27の市民防災会により構成されています。

毎年、高齢者などの避難支援を含めた総合的な防災訓練を行うとともに、防災・防犯パトロールを年間245回も実施するなど、住民の防災意識の高揚や放火防止に取り組み、地域防災力の向上に多大な貢献をされています。





事業所部門

(社)福岡県建築士会福岡支部

平成16年から災害ボランティア団体等と災害を想定した訓練を実施しています。

昨年3月には福岡県西方沖地震2周年イベント「ありがとう 福岡 2007」を主催し、多くの参加者を集め、県民の防災意識の普及啓発に多大な貢献をしました。

また、本年3月に住民参加型防災イベント「防災どんたく」を企画、災害ボランティア団体の連携強化にも大きな役割を果たしています。



個人部門

伊藤 和義 氏

福岡県西方沖地震の際に玄界島の防災リーダーとして島民の救出活動や安否確認の統率を行うとともに、迅速な決断により、即日、島民の避難を完了させるなど被害の軽減に大きな役割を果たしています。

また、玄界島復興対策検討委員会会長として、復興計画の取りまとめなど多大な貢献をされています。

